

令和7年度 学校訪問における「学校マネジメント」に係る取組事例（観点Ⅱ）

大分教育事務所

取組実践校：由布市立庄内中学校

取組実践：子どもの変容を基にした検証・改善

【取組のポイント】

○学校として育成を目指す資質・能力「他者と関わる力」の育成に向けて、具体的な子どもの姿を基に検証・改善している。

【取組の成果】

○生徒アンケートで、「行事に真剣に取り組めたか」「自分の仕事に責任を持って取り組めたか」等の項目で95%以上の生徒が肯定的な評価を示した。

○生徒指導の三機能の向上が、以下のような生徒の具体的な姿として表れている。

- 自己決定 ➡ これまで「どうしたらいいですか」と指示を待っていた生徒が、「こうしていいですか」と自ら考えて提案し、行動するようになった。
- 自己存在感 ➡ 行事のリーダーや縦割り清掃などを通して、責任感やリーダーとしての意識が高まっている。
- 共感的人間関係 ➡ 失敗した仲間に対して「大丈夫」と励ましたり、否定的な発言がなくなったりするなど、温かい声かけが増えた。

【具体的な取組】

○教職員は、行事や日常生活において、生徒指導の三機能の達成された具体的な生徒の姿を共有して、意識して取り組む。 ➡ 実施率100%

○教師は、取組の前に、生徒に「終わった時の自分」の姿（目標）を立てさせ、目的をもって取り組ませる。事後に振り返りを行う。 ➡ 実施率100%

体育大会での教師による目指す子ども像を基にした検証・改善（一部抜粋）

	事前（望む姿）	事後（実際の姿）
自己決定	・指示がなくても自分から動いている ・自分で先を読み、必要なことを考えて実践できる	・係活動の際、欠席の生徒がいると自分たちで考え誰かが代わりに入るかを決めて行動していた
自己存在感	・種目責任者や係、リーダー、フォロワーとしてそれぞれが責任をもって動く	・それぞれが責任をもって係活動に取り組み、自分の仕事を忘れる生徒がいなかった
共感的人間関係	・誰かに頼り切っているのではなく、それぞれが仕事を丁寧に言い、お互いのことを認め合うことができていた	・よいところを具体的に褒めあう姿、お互いを讃えあう姿がいくつも見られた

生徒指導の三機能を基に、他者と関わる力が育っているか子どもの姿で確認している

体育大会での子どもの検証・改善



修学旅行に向けての子どもの目標



事前

協力して信頼される自分
そのために何事にも全力で1度言ったことは絶対にあきらめないようにする

事後

協力する力がつきました。これから、みんなで助け合っていこうと思います。

同じ子どもの記入内容

事前

みんなに信頼され、たよられるようになりたい
そのために係の仕事をしっかりと学習係としてみんなをひっぱれるようにする

具体的な姿が設定されているので、他者と関わる力が育っているかどうか検証しやすい